

毎日歌壇

加藤 治郎 選

水原 紫苑 選

伊藤 一彦 選

米川千嘉子 選

戦争をしないと決めた文がいま輝き放ちわた
しをまもる 守口市 寺前 晴

△評▽武力ではない。言葉が私を守る。憲
法9条だ。3月の日米首脳会談で高市首相
が国内法上の制約を説明したことを思う。

飲み込めず舌でこした錠剤のざらつきですが
「けれども」「しかし」 フランス 小仲 翠太

△評▽舌の触感を巧みに表現している。上
句が下句のためらいの比喩になっている。

三歩目でスキップをする夕飯はオムライスだ
しこれは夢だし 大津市 世田 夏雪

日だまりの匂いを吸ったグラシン紙 春の嵐
を詩集とあゆむ 津市 川原田明子

真っ白な求肥を食めば柔らかくいつかは終
わる幸福の味 川越市 栗原 渚

やわらかい雨のち晴れにふあふあと綿毛とあ
なたの手紙が届く 兵庫 今野 浮夢

にんじんもたまねぎもみなやわらかく冬のあな
たはどこへ消えたの 名古屋 中谷 有希

暗がりにながむかへ子を抱いて宇宙の縁の
ように眠りゆく 神戸市 浅田 拓史

泣くつもりなんてなかった たた海が見たかっ
ただけ、見たかっただけ 横浜市 井上 登

知っていると知っていると人になる開けっ放
しのドアが鳴いている 東京 石井 しい

アボリアのまま煮えている根菜の答えを出さ
ない夕食がすき 安城市 唐澤 うに

△評▽根菜は問いがたくおさなには愛し
がたく、それでいてなつかしく私たちのい
のちを養うものたち。

死者の声をほふる朝の乱暴な言葉つかいはや
めてと母は さいたま市 雨谷 詩穂

△評▽死者へのおそれとやまの朝。た
ましいにつながらる母のするどい耳よ。

世界には幾つものドアがあるどれもノブは失
われているけれど 東京 境 千尋

水平線と南十字をどちらともなく眺めればザ
ネリの眸 仙台市 葉山つぐみ

川も樹も囁も人もおおゆきのなかではみん
なひととき黒さ 熊本市 夏風かをる

金星に会いたい夜があるでしょう火に焚べる
なら星図をあける 宝塚市 白川 楼留

さみしさは続いてゆくね啄木鳥の連弾は少し
ずつ遅れて 大阪 中村 杏

躑躅の町で描かれたのねあたたかくてシビ
アなあなたの人間性が 横浜市 永永 キヌ

なにをどう殺せば四月 あかがねの薬品棚に
月は迫って 加古川市 石村 まい

わんわんわん…言葉の内の意味が落ち 反響
している叫んだ音だけ 東京 カ ヒ

子どもらの糧あそび跡の丈長き枯草ようやく
立ち上がる春 福島市 澤 正宏

△評▽春の訪れを歌い作者の捉えた場面は
ユニークで表現に説得力がある。「ようや
く」以下、気持ちがあっさり籠もっている。

お話に花咲かせる私一年生桜の花もこちらを
見ています 川西市 丑ヶ谷

△評▽作者は16歳というから高校1年生。
はずむ心が伝わる。次の歌の作者は15歳。

テーブルにとんとんすれば抜けてゆく生地の
空気と心の隙間 宮崎 門田 藍子

メガネかけ補聴器をかけマスクかけほんに働
きものだね耳は 掛川市 村松 建彦

保護猫の姉妹は丸くひだまりの爪研ぎボウル
にをさまり眠る 豊中市 赤木 菜花

百均のタイ製グラスよどのやうな旅をしたの
か聞かせておくれ 横浜市 千々岩 清

苦しんだ末の自傷は罪ですか 君の笑顔がま
つすすぎて 名古屋市 田中 靖人

漆黒の台座に据えし石ひとつ素朴のままにア
ートとなりぬ 宮崎市 木許 裕夫

唇くらき切り通しゆく吾がうへにいづこから
とも知れぬ花ふる 東京 浅倉 修

物凄い速さで席を勝ち取った大人が次の駅で
降りゆく 川崎市 ななつの

子らと暮らした十七年は眩しくて彼らの愛し
た正義の味方 三重 中山由賀子

△評▽作者の子育ての時期は昭和の終わり
から平成にかけての頃か。子どもたちが素
直に正義を信じられた時代だったか。

真夜中に通過せし駅明るかり盆梅展の長浜の
駅 八千代市 若松トモエ

△評▽寝台特急などからの風景か。盆梅展
で有名な長浜梅がすすんだような明るさ。

こんには、さてその次は何で言おうっそれを決め
てからの「こんには」 横浜市 友常 甘酢

アウェイをベンツに替へし隣人と百均で会ふ
アルミ箔求め 京都市 日下部ほのの

新聞の紙面を流るるインクから世の中が見え
また消えてゆく 城陽市 近藤 好廣

一周忌「強く生きよ」と亡き母が 病の我が
気力ふりしぼる 紀の川市 林 史子

前の患者の友達らしき朝毎に病室の窓のぞき
に来る鳩 吹田市 鈴木 基充

サーモンが駆け足でぐる回転寿司過ぎてしま
えり夫との五十年 仙台市 石川 初子

酸っぱさも甘さも淡く厚着して転ぶ文旦老い
われに似る 熊野市 鈴木 圭子

亡き妻のパソコン画面にらむ吾に「再婚しな
いの？」と問ひたる娘 大仙市 佐々木律成

◇第43回兜太現代俳句新人賞—内野義悠「雨滴
の窓」(50句)、高田祥聖「みしころ」(50句)
◇第24回前川佐美雄賞—日高堯子・歌集『白在
浜』▽第34回ながらみ書房出版賞—屋良健一郎・
歌集『KOZA』
◇第70回現代歌人協会賞—小原奈実『声影記』、
貝澤駿一『ダニー・ボーイ』

投稿規定 はがき1枚に選者を指定し、未
発表の自作を2首・2句まで。住
所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛
先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、
短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○
○先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの
投稿フォーム(https://mainichi.jp/kadan-
haidan/)でも受け付けています。

次回(12月)に
掲載します。